

単元名

「伝統文化を受け継ごう ～落語に挑戦！～」

～挑戦問題 「たくさんの人を笑顔にできる新しい自分づくりに挑戦しよう！」～

本単元で育成する資質・能力

知識・技能 情報収集・判断 思考・表現 挑戦・探究 責任・使命 協力・協働 感謝・貢献

1 対象 第2学年A組 男子5名 女子12名 計17名

2 単元で目指す学ぶ姿

日本の伝統文化である古典落語の価値とともに伝統文化で大切にされてきた学び方を理解し、その習得・活用を通して、表現力を高めるとともに、人を楽しませる新しい自分づくりに挑戦する姿

＜単元で生徒と共有する学びの姿を見取る資質・能力のルーブリック＞

	資質・能力	評価	評価基準
技能・知識	落語に係る知識・技能	S	落語を披露して、落語の楽しさや魅力を伝えることができる。
		A	落語における話し方のコツや視線の技も覚えることができる。
		B	落語のことをいろいろと理解することができる。
		C	落語を覚えることができない。
横断的・総合的な問題解決の能力	情報収集	S	落語のおもしろさだけでなく、落語の奥深さを感じることができる。
		A	落語のおもしろさのポイントを見付け出すことができる。
		B	落語のおもしろさのポイントを見付けることができる。
		C	落語のおもしろさのポイントを見付けることができない。
	判断	S	登場人物の性格やしぐさなどが目に浮かぶように表現できる。
		A	登場人物の性格やしぐさが表現できる
		B	登場人物を意識した表現ができる。
		C	登場人物を意識した表現ができない。
	思考表現	S	落語をマスターし、人を楽しませる新しい自分を創り出すことができる。
		A	落語をマスターしようと、見通しを持って粘り強く学び続けることができる。
		B	落語をマスターしようと、最後まで学び続けようと努力できる。
		C	落語をマスターすることを途中であきらめた。
実社会における横断的・総合的な問題解決に取り組む態度	挑戦探究	S	発表に向け、自分に与えられた責任や使命を考えることで、自分の生き方を考えるきっかけにもできる。
		A	発表に向け、自分に与えられた責任や使命を考え、すべきことを行うことができる。
		B	発表に向け、自分に与えられた責任や使命を理解し、果たそうと努力することができる。
		C	発表の場で自分に与えられた責任を果たそうとしない。
	責任使命	S	他の人と協働して、お互いの表現力を高め合い、心をひとつにして最高の舞台をつくりあげることができる。
		A	他の人とアドバイスをし合い、また競い合うことで、お互いの落語などの発表をよりよいものにすることができる。
		B	他の人と協力しようと努力することができる。
		C	他の人と協力することができない。
	協力協働	S	今回の取組を通して、自分なりに感謝の気持ちを伝え、貢献することで、いろいろな人と絆を深めることができる。
		A	今回の取組を通して、自分なりに感謝の気持ちを伝え、自分なりに貢献することができる。
		B	今回の取組を通して、自分なりに感謝の気持ちを伝え、自分なりに貢献しようと努力することができる。
		C	今回の取組を通して、自分なりに感謝の気持ちを伝え、自分なりに貢献しようとする努力が足りない。
感謝貢献	S	今回の取組を通して、自分なりに感謝の気持ちを伝え、貢献することで、いろいろな人と絆を深めることができる。	
	A	今回の取組を通して、自分なりに感謝の気持ちを伝え、自分なりに貢献することができる。	
	B	今回の取組を通して、自分なりに感謝の気持ちを伝え、自分なりに貢献しようとする努力が足りない。	

		C	今回の取組を通して、自分なりに感謝の気持ちを伝え、貢献しようという気持ちになれない。
--	--	---	--

【評価方法】

生徒には、上記の資質・能力のルーブリックを適時示し、意欲を喚起させ、単元の最後の自己評価に教師の評価を加える。(授業観察、ワークシート)

3 単元設定の理由

1学期には「魅力的な生き方探し」の単元で、ビブリオトークに取り組み、人生の先輩たちの生き方を知り、それを伝え合う活動において、本から得た知識や自分の考えを原稿やフリップにまとめて、表現する機会をもった。その中で、自分の学んだことをクイズやフリップの工夫によって、相手を楽しませる工夫も生まれてきた。また、単元後に人前で表現すること、伝えることの難しさを感じたり、もっと分かりやすく伝える力を伸ばしたいという感想が見られた。本学園では、小中一貫教育を進める中で、第1学年(7年生)を中期のしめくくりと位置付けている。そのしめくくりとして、表現力をもう一段高めるために、本単元を設定した。

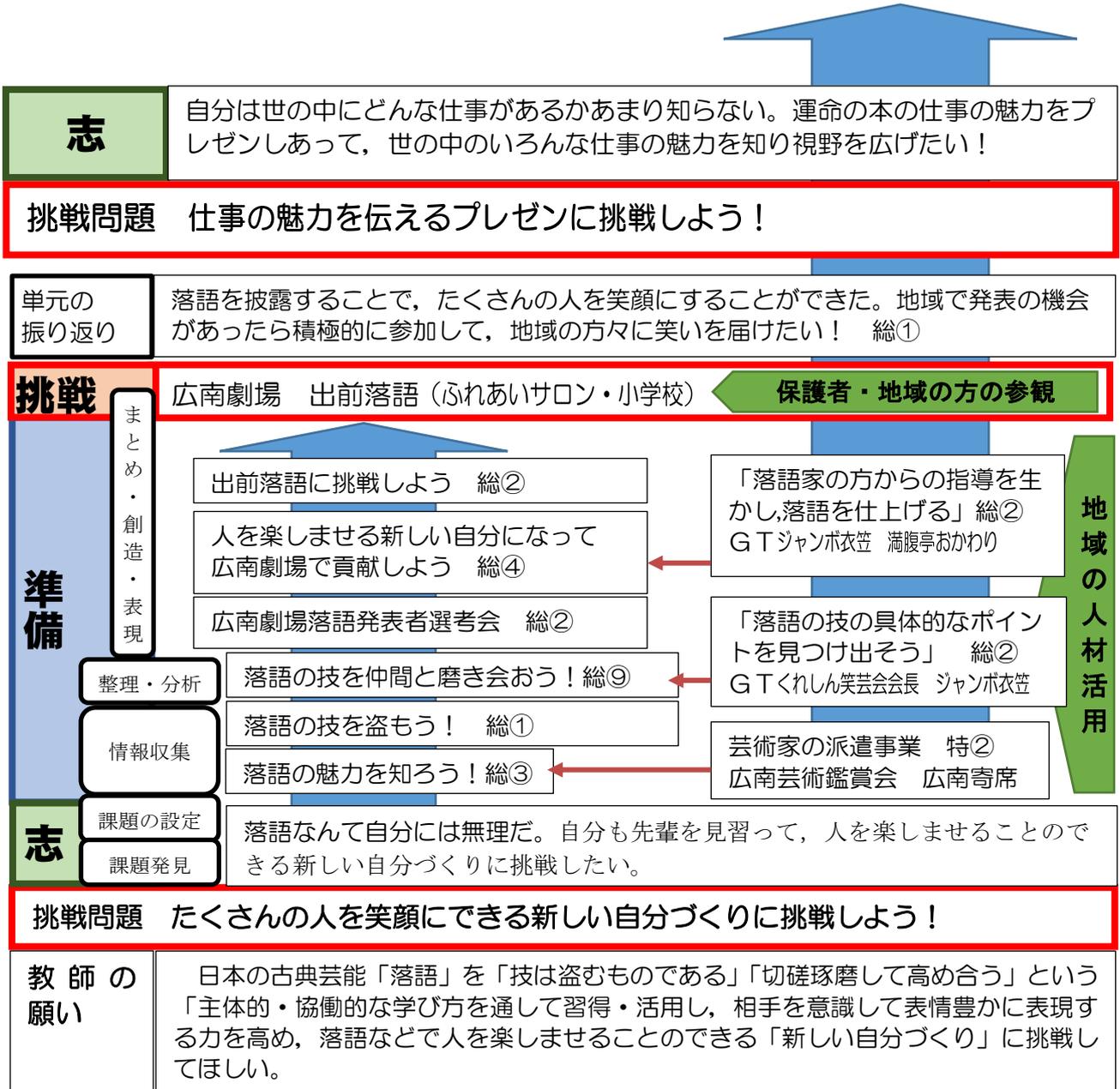
表現力を高める上で、日本の伝統芸能である落語に挑戦することは、日本の伝統文化を理解するとともに、軽妙な語り口で、登場人物を生き生きと表現する役割演技、また、同時に、視線、扇子と手ぬぐいのみを使った所作など非言語によるコミュニケーション技術を学ぶ上で、有効な題材と考えている。ちなみに、この時期に合わせ、国語科では「さんちき」を扱い、物語の登場人物像の表現を手がかりに読み取り、それを生かした表現を行う学習を行う。その学習の成果を活用させる場面としても有効であると考え。また、3学期に音楽で尺八について学んだり、国語では古典の世界や古典作品に触れる機会を持ったりと、他教科でも日本の伝統芸能を学ぶ予定である。

指導にあたっては、生き生きと落語を演じる先輩の姿を通して、「笑い」「人を楽しませる」ことの価値に気付かせたい。また、伝統文化で大切にされてきた「技は教えてもらうものではなく盗むものだ」という主体的な学び方を知るとともに、友達と共に切磋琢磨しながら稽古することを通して、「協働して高め合うことの喜び」と「人を楽しませるまでの成長」という達成感を感じさせることで、生徒の学びに向かう力を育てたい。

ゴールとして、習得した落語を、日頃からお世話になっている方々へ感謝の気持ちも込め、実際に家族・友人・地域の人などの前で披露して、楽しんでもらえる体験を仕組むことで、表現活動の醍醐味を味わわせたい。そのことで、後期の様々な表現活動へ主体的に取り組むさらなる挑戦心を育むことができる考える。

演目の選択については、1話を5～10分程度の内容におさめた「えほん寄席」(小学館)から、指導者として迎えたジャンボ衣笠さん(広島県で活躍されている落語家)と協議の上、生徒の発達段階を踏まえるとともに、非言語活動と言語活動、両面で教育効果が期待できそうなものを選んだ。

4 本単元の構想図（貫きカリキュラム）



<p>理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の演じ分けをするには、「上・下」以外に具体的にどのような方法があるかを模範演技や演技指導を通して見つけ出す。 <p>○「落語の技を磨き合おう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模範演技や演技指導によって学んだ表現の技の工夫を、各グループで話し合ったり、演技を見せ合ったりして磨き合う。 <p>9 ○『対比』に注目して落語をレベルアップさせよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「対比」のポイントを意識して話し方の工夫を考え、表現する。 <p>○「落語家の方からの指導を生かし、落語を仕上げる」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・落語発表会選考会に向けて練習を積む。 		<p>★【協力・協働】</p> <p>同じ演目の仲間を意識し合うことで、落語を覚えることに意欲的に取り組むことができる。(行動観察・振り返りシート)</p> <p>2 ★【情報収集・判断】</p> <p>落語家の方から助言を引き出し、笑いをさそう具体的な表現のポイントを見つけて出すことができる(発表・ワークシート)</p> <p>1 ★【協力・協働】</p> <p>仲間どうしでアドバイスし合うことで、よりよい落語に高め合うことができる。(振り返りシート)</p> <p>2 ★【思考・表現】</p> <p>「対比」のポイントをしっかり考えることで、落語のお話をより面白く話せるようになる。(行動観察・ワークシート)</p>
<p style="text-align: center;">まとめ・創造・表現Ⅰ 広南劇場落語発表者選考会</p> <p>○「広南劇場落語発表者選考会で練習の成果を発揮する」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代表の座をかけて、お互いの落語を披露し合う。 ・お互いの発表を評価し合い。代表者を推薦し合う。 ・自分の演技を振り返り自己評価をする。 ・単元のここまでの取り組みの振り返りをする。 <p>STEP 4「人を楽しませる新しい自分になって広南劇場で貢献しよう！」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「広南劇場」へ向け、選ばれた代表者3名はさらに練習を積み、より楽しい落語になるように技を練る。 ・代表者以外の生徒は落語で身に付けた表現力を活用して、幕間で披露する出し物を3グループに分かれて考え、小道具など必要なものを準備し、練習する。(大喜利、なぞかけ、ダンス等) ・客席での応援の方法を考え、準備する。 		<p>2 ★【知識・技能】</p> <p>落語の表現のポイントを生かした落語ができる。(発表・ワークシート)</p> <p>★【挑戦・探究】</p> <p>落語をマスターしようと、見通しを持って粘り強く学び続けることができる。(振り返りシート)</p> <p>4 ★【責任・使命】</p> <p>発表に向け、自分に与えられた責任や使命を考え、するべくことをきちんとすることができる。(行動観察)</p> <p>★【思考・表現】</p> <p>披露する相手に応じて、面白さがより伝わるものになるような表現の工夫ができる。(ワークシート)</p>
<p style="text-align: center;">まとめ・創造・表現Ⅱ 広南劇場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広南劇場を振り返り、作文を書き、これまでの取組を自己評価する。 <p>STEP 5「出前落語に挑戦しよう！」</p> <p style="text-align: center;">実行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広南劇場(3名)・ふれあいサロン長浜(3名)・ふれあいサロン小坪(3名)・小学校(3名)でそれぞれ落語を披露する。 ・各場にふさわしい高座名を与え、落語の始めの言葉を考える。 	<p>2</p>	<p>★【思考・表現】</p> <p>相手に応じた表現の工夫を考え、行うことができる。(行動観察・ワークシート)</p>

10	<ul style="list-style-type: none"> ・各場において、演者以外は、めくり・CD・小道具などの役割分担をしてそれぞれの会が成功するようにサポートする。 ・各場を盛り上げるために拍手・掛け声など工夫する。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px; width: fit-content; margin: 10px 0;"> 振り返り </div> <p>○「単元で身に付けた資質・能力を振り返ろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自、落語を披露することで、たくさんの人を笑顔にすることができたか、笑いの力を届けることができたかについて振り返り、クラスで交流する。 ・ワークシートのルーブリックを見て、本単元で身に付けた資質・能力を自己評価する。 ・ワークシートを提出し、教師の評価を受ける。 	1	<p>★全項目を単元のルーブリックで振り返る。</p>
----	--	---	-----------------------------

8 本時の学習（5～10時間目／全26時間）

- (1) 本時の目標 落語を覚えることに協働して取り組むことを通して、落語の指導を受ける準備をする。
- (2) 学習の流れ

学習活動	指導上の留意点（・） 配慮を要する生徒への支援（◆） 予想される生徒の反応（ <u> </u> ）	評価規準 資質・能力（★） （評価方法）
<p>1 課題意識を持つ。 ・今後の流れを確認し、次回、直接落語家の指導を受けるまでに必要な準備は何か考える。</p> <p>2 本時のめあてを確認する。</p>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・落語は最低覚えておかないと失礼だ。 ・「上・下」の視線ぐらいはきちんとできるようにしておきたい。 ・自分だったら覚える意欲もない生徒にしえたくないだろうと思う。 </div> <p>・最低限、覚えておくことが学ぶ側の責任であることに気付かせる。</p>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>めあて 「落語を覚えよう！」</p> </div>		
<p>・「覚える」という課題解決へ向け、グループで切磋琢磨しながら協働的に学ぶことを理解する。</p> <p>3 グループでの練習の方法を確認する。</p> <p>4 グループで稽古を行う。（5～10時間目）</p> <p>①時間の最初にお互いの個人目標を決め、発表し合う。</p> <p>②時間の最後にお互いの進捗状況を確認しあう。</p> <p>③ワークシートの振り返りのページに本時の自分の取り組みについて振り返って記入する。</p> <p>（10時間目の最後）</p> <p>5 予習課題を確認する</p> <p>・落語家の方に指導を受けたいポイントを振り返りシートに書く。</p>	<p>・覚えたかどうかのテストやアドバイスには教師が協力することを伝える。</p> <p>・単調な練習にならないように、毎時間自分の目標を立て、授業の最後に振り返りを行うことで、練習の積み重ねによってだんだんと上達していく実感を持たせる</p> <p>◆配慮が必要な生徒には教師が個別支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しっかり覚えられたら、「上・下」を付けたら、役割演技や仕草に挑戦するように助言する。 ・担当教師は、必要に応じて助言や指導を行う。 <p>・落語家に質問したいことや教えてもらいたいポイントを整理させる。</p> <p>・各グループで直接指導の順番を決めておく。（覚えている順）</p>	<p>★【協力・協働】</p> <p>同じ演目の仲間を意識し合うことで、落語を覚えることに意欲的に取り組むことができる。（行動観察・振り返りシート）</p>

9 本時の学習（11～12時間目／全26時間）

(1) 本時の目標 ゲストティチャーとして招いた落語家の方に助言を求めると、落語の表現を高める具体的なポイントの理解を深める。

(2) 学習の流れ

学習活動	指導上の留意点（・） 配慮を要する生徒への支援（◆） 予想される生徒の反応（┌───┐）	評価規準 資質・能力（★） (評価方法)
<p>1 課題意識を持つ。 ・どういふふうになれば落語家の方から適切なアドバイスが引き出せるか考える。</p> <p>2 本時のめあてを確認する。</p>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・指導してほしいポイントを自分から伝える。 ・他の人への指導も参考にできる。 </div>	
<p>めあて 「落語の技の具体的なポイントを見つけ出そう」</p>		
<p>3 グループに分かれ、指導を受ける。 ・指導を受けたいポイントを落語家の方に伝える。</p> <p>・個別に指導を受け、助言を引き出す。</p> <p>・気付いたポイントをメモする。</p> <p>4 お互いメモしたことを発表し合い、模造紙にまとめる。</p> <p>5 本時の振り返りをする。 ・ワークシートの振り返りシートを書く。</p> <p>6 予習課題を確認する。 ・次の時間のグループ練習の目標を考えてくる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで練習したときの疑問点や教えて欲しかったことなど質問する。 ・仲間が落語家の指導を受けている姿を見ることが勉強になるので、自分が指導を受けるとき以外の時間もしっかり指導を見て、見付けた工夫のポイントをメモさせる。 <p>◆指導の様子を撮影して録画しておき、後の個人練習で活用できるようにしておく。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>生徒のメモ例</p> <p>【転失気】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人物によって表情をかえたり、動作をもう少しオーバーにする。 <p>【初天神】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あめやみたらしを食べる所や凧を揚げる所などは見せ場なので動作を大きくする。 <p>【饅頭こわい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動作を大げさにしたり、その場面を自分で想像し、思い出すように演じる。アドリブを入れても良い。 </div>	<p>★【情報収集・判断】</p> <p>落語家の方から助言を引き出し、笑いをさそう具体的な表現のポイントを見つけ出すことができる (発表・ワークシート)</p>

10 本時の学習（13～14時間目／全26時間）

- (1) 本時の目標 前時に自分たちがまとめた落語の表現のポイントにそって、ひとつひとつ協働して、表現力を高め合う。
- (2) 学習の流れ

学習活動	指導上の留意点（・） 配慮を要する生徒への支援（◆） 予想される生徒の反応（! ? □ △ ○ ×）	評価規準 資質・能力（★） （評価方法）
<p>1 課題意識を持つ。 ・今の自分の落語の改善点について考える。 2 本時のめあてを確認する。</p>	<p>・前時に模造紙にまとめた落語の表現のポイントから練習のポイントを確認する。</p>	
<p>めあて 「落語の技を磨きあおう！」</p>		
<p>2 グループでの練習の方法を確認する。</p> <p>3 グループで稽古を行う。</p> <p>① 時間の最初にお互いの個人目標を決め、発表し合う。</p> <p>② 時間の途中にお互いの楽を披露しあって、アドバイスをし合う。</p> <p>③ ワークシートの振り返りのページに本時の自分の取り組みについて振り返って記入する。</p> <p>④ 次時までには予習または復習としてどんな個人練習をしあってくるか確認する。</p>	<p>・3つの教室に分かれ、グループごとに練習する。</p> <p>・自分で工夫したり、仲間と一緒により笑ってもらえるための技を考えたり、アドバイスし合って技を磨いていく。</p> <p>・新しい発見や際立った技の工夫があれば、教師がグループ全体に紹介する。</p> <p>・掲示用の文章に気付いたことなどをどんどん書きこんで深めていく。</p> <p>◆撮影して録画しておいた落語家の演技を見返し、個人練習で活用する。</p>	<p>★【協力・協働】 仲間どうしでアドバイスし合うことで、よりよい落語に高め合うことができる。 （振り返りシート）</p>

1 1 本時の学習（15時間目／全26時間）

- (1) 本時の目標 物語を盛り上げる表現の工夫のポイントとして「対比」という観点を意識することで、協働してそれぞれの落語のレベルアップを図る。
- (2) 学習の流れ

学習活動	指導上の留意点（・） 配慮を要する生徒への支援（◆） 予想される生徒の反応（┌───┐）	評価規準 資質・能力（★） （評価方法）
<p>1 課題意識を持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 代表生徒の2つの意図的な実演を比較する中で、物語を盛り上げるポイントとして「対比」を強調することの重要性に気付く。 <p>2 本時のめあてを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 落語では内容や登場人物の「対比」がうまく使われており、それを強調することで、面白さが伝わる 	
<p>めあて 「『対比』に注目して落語をレベルアップさせよう！」</p>		
<p>3 グループ練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちの演目ではどこを「対比」させることによってより楽しくなるか話し合う。 具体的な工夫の方法について話し合う。 話し合ったことを意識して、順番に実演をする。 それぞれの演舞に対して、お互いにアドバイスし合う。 <p>4 本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートの振り返りのページに本時の自分の取り組みについて振り返って記入する。 <p>5 予習課題を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 家で練習してくることを確認する。 	<div style="border: 2px dashed black; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> 「転失気」 和尚さんとちんねんさんの前半と後半のしゃべり方 「初天神」 子どものうれしい時と悲しい、起こった時のしゃべり方や表情 「饅頭こわい」 登場人物の好きなものと嫌いなものをいう時のしゃべり方や、まんじゅうの食べ方 </div>	<p>★【思考・表現】</p> <p>「対比」のポイントを意識しっかり考えることで、落語のお話をより面白く話せるようになる。（行動観察・ワークシート）</p>

13 本時の学習（18・19時間目／全26時間）

- (1) 本時の目標 これまでの練習の成果を発揮して、落語を披露し合い、相互評価をする中で、それぞれの表現力の向上を実感しあう。
- (2) 学習の流れ

学習活動	指導上の留意点（・） 配慮を要する生徒への支援（◆） 予想される生徒の反応（┌───┐）	評価規準 資質・能力（★） （評価方法）
<p>1 課題意識を持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 選考会ではあるが、「切磋琢磨」が目標であり、落語を通して人を楽しませる新しい自分づくりに挑戦することが本単元の目標であることを再確認する。 <p>2 本時のめあてを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> いくらしっかり練習しても、本番で力を発揮できないことはよくあることを伝え、「舞台度胸」を身に付けることの大切さを理解させる。 GTとして校長先生・教頭先生、学校主事さんに審査員として参加してもらうことを伝える。 	
<p>めあて 「広南劇場落語発表者選考会で練習の成果を発揮する」</p>		
<p>3 選考基準と方法を確認する。</p> <p>4 演目ごとにグループ分けをし、発表をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの練習の成果を精一杯発表する。 お互いの発表を評価しあい、もっと良いものをつくり上げていこうとする。 【時そば】→【長短】→【化け物使い】の順に演技をさせる。 審査員からの講評を聞く。 <p>5 本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループの中で演技が最も素晴らしかったと思う3人を選ぶ。 自分の演技を振り返り自己評価をする。 <p>6 予習課題を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 聞き手の態度についてもどのような態度が望ましいか考えさせる。 <p>【評価方法並びに評価項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「声の大きさ」、「役割演技・セリフの工夫」、「表情・身振り手振り」、「小道具の使い方」の4項目について「◎よくできている!」、「○頑張っているけどもう少し!」、「△もっと頑張ってみよう!」の3段階基準で評価し、「一言メッセージ」欄に自由記述でコメントを記入させる。 <p>◆配慮を要する生徒には必要な支援を行う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>生徒の振り返り例</p> <ul style="list-style-type: none"> みんなの前で恥ずかしがらず発表している人は、とても面白かった。 みんなに笑ってもらったりすると、とてもうれしかったし、自信になりました。 自分なりにアレンジして、恥ずかしがらず、役になりきった発表ができた。 </div>	<p>★【挑戦・探究】</p> <p>落語をマスターしようと、見通しを持って粘り強く学び続けることができる。（振り返りシート）</p>

14 本時の学習（20・21時間目／全26時間）

- (1) 本時の目標 広南劇場で各演目を披露する代表者は落語の技を磨き、それ以外の生徒は広南劇場を盛り上げるための幕間の出し物や役割分担を決め、準備をする。
- (2) 学習の流れ

学習活動	指導上の留意点（・） 配慮を要する生徒への支援（◆） 予想される生徒の反応（┌───┐）	評価規準 資質・能力（★） (評価方法)
<p>1 課題意識を持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広南劇場で代表として落語をする人以外も、落語で身につけた表情豊かな表現力を活用することが大切であることを理解する。 <p>2 本時のめあてを確認する</p>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・代表者に選ばれたので、みんなのためにもがんばりたい。 ・代表に選ばれなかったのは悔しいけど、他の方法で広南劇場ではお客さんを楽しませたい。 </div>	
<p>めあて 「人を楽しませる新しい自分になって広南劇場で貢献しよう！」</p>		
<p>3 代表者はさらに練習を積み、より楽しい落語になるように技を練る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【転失気】【初天神】【饅頭こわい】の順に練習をする。 ・実際にステージでどう演じるか、着物を着ての所作（めくり・座布団）の指導を受ける。 <p>4 代表者以外の生徒は広南劇場を笑いの力で盛り上げるための幕間の出し物を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習課題で準備してきた出し物を披露し合う。 ・披露する相手に応じて、面白さがより伝わるものになるような表現の工夫を考えさせる。 <p>5 幕間の出し物用に「大喜利」「なぞかけ」「ダンス」の3つのグループに分かれ、小道具など必要なものを書き出し、計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれ、リーダーを選出する。 ・グループで練習をする。 <p>6 本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・衣装の着付けは、教職員が担当する。 ・落語家に演技指導していただき、疑問点やさらに教えて欲しいことなどを質問させ、技の向上に生かすよう助言する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・本物の寄席みたいな雰囲気になってきて気合いが入るぞ！ ・落語で大勢の人を笑わせてやるぞ。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ステージ上で見栄えがする芸か、客観的にとらえ、工夫・改善を考えさせる。 <p>◆「仲間受け」だけの出し物を考えている生徒には、誰に対して発表するのかを考えさせ、客観性をもつよう指導する</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・どうしたら面白いなぞかけを作れるのか、いろいろな人の動画などを参考にしよう。 ・どうやったら、見ている人に楽しんでもらえるか。光る棒などを効果的に使うにはどうしたらいいか考えよう。 ・どんな内容の大喜利にしたらいいか自分たちで内容を考えよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・考えたこと、工夫・改善したこと、また今後の取り組みや披露の場への意気込みなどを記入するようにさせる。 	<p>★【責任・使命】</p> <p>発表に向け、自分に与えられた責任や使命を考え、するべくことができる。(行動観察)</p>

15 本時の学習（22・23時間目／全26時間）

- (1) 本時の目標 広南劇場で落語を披露する生徒は落語の技を磨き、それ以外の生徒は幕間の出し物の練習や、会場全体を盛り上げる方法を考え、準備する。
- (2) 学習の流れ

学習活動	指導上の留意点（・） 配慮を要する生徒への支援（◆） 予想される生徒の反応（┌───┐）	評価規準 資質・能力（★） (評価方法)
<p>1 課題意識を持つ。 広南劇場の目的を確認する。</p> <p>2 本時のめあてを確認する。</p>	<p>┌───┐</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日ごろ、お世話になっている地域の方 に楽しんでもらえる舞台をつくること で、感謝の気持ちを伝えることが大切 だ。 ・しっかり練習して、成功させるぞ。 <p>└───┘</p>	
<p>めあて 「人を楽しませる新しい自分になって広南劇場で貢献しよう！」</p>		
<p>3 落語の代表者はさらに練習を積み、より楽しい落語になるように技を練る。</p> <p>4 落語の代表者以外の生徒は広南劇場を笑いの力で盛り上げるための幕間の出し物を練習する。 【なぞかけ】 ・なぞかけの内容をしっかりと把握し、どのようにいったら伝わるかを考える 【ダンス】 ・一生懸命さが伝わるようにしっかりと、メリハリをつけて踊る。 【大喜利】 ・座布団運びの動きを含めた全体の動きを考える。</p> <p>5 広南劇場の舞台づくりのリハーサルを行う。 ・落語用の高座や幕間の演技に必要な道具の出し入れを確認する。 ・「よっ！○○」などの声かけや拍手が会場を盛り上げることに気付く。</p> <p>6 本時の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・衣装の着付けは、教職員が担当する。 ・落語家に演技指導していただき、最終チェックをして、技の向上に努める。 【なぞかけ】 ・見ている人に伝わりやすいように、言い方や間の取り方などを工夫させる。 【ダンス】 ・振り付けの工夫や隊形移動、光る棒をどのように目立たせるかを考える。 【大喜利】 ・大きな声で、わかりやすく発表する ◆小グループをつくり、恥ずかしがって声かけができない生徒も落語で学んだことを思い出させ、大きな声が出せるよう指導する。 <p>┌───┐</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いよいよ広南劇場だ。自分は落語ではないけど、しっかり発表して観客の人に喜んでもらうぞ！ ・落語の代表者として、がんばるぞ！ <p>└───┘</p>	<p>★【思考・表現】 披露する相手に応じて、面白さがより伝わるものになるような表現の工夫ができる。(ワークシート)</p>

16 本時の学習（24・25時間目／全26時間）

- (1) 本時の目標 「出前落語」に向け、披露する相手に応じて、落語の面白さがより伝わるものになるような表現の工夫を考える。
- (2) 学習の流れ

学習活動	指導上の留意点（・） 配慮を要する生徒への支援（◆） 予想される生徒の反応（「-----」）	評価規準 資質・能力（★） （評価方法）
<p>1 課題意識を持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元のしめくくりの「出前落語」の目的を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 広南劇場での地域の方の感想などを紹介し、達成感を共有する。 単元の目的が「みんなを楽しませることのできる新しい自分づくり」であったことを思い出させる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> 広南劇場では、代表の人がとてもがんばって輝いて見えた。自分もあんなふう に多くの人を楽しませたい！ </div>	
<p>めあて 「出前落語に挑戦しよう！」</p>		
<p>3 落語を披露する場面を決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ふれあいサロン長浜（3名）・ふれあいサロン小坪（3名）・広南小学校（3名）でそれぞれ落語を披露することを知る。 <p>4 各場での公演計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 披露する相手に応じて、落語の面白さがより伝わるものになるような表現の工夫を考えさせる。 高座名を発表する。 演者以外の役割分担をする。 会場ごとにリハーサルをする。 <p>5 本時の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 披露する相手が高齢者の場合と小学生の場合では気を付けることが異なることに気付かせ、そこから相手に応じての表現の工夫を考えさせる。 各場にふさわしい高座名を与え、落語の前口上を考えさせる。 各場において、演者以外は、めくり・CD・小道具などの役割分担をしてそれぞれの会が成功するようにサポートさせる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> さあ、披露のラストチャンスだ！しっかり練習して楽しんでもらうぞ！ </div>	<p>★【思考・表現】</p> <p>相手に応じた表現の工夫を考え、行うことができる。（行動観察・ワークシート）</p>

17 本時の学習（26時間目／全26時間）

- (1) 本時の目標 今回の単元の目標「たくさんの人を笑顔にできる新しい自分づくりに挑戦しよう」が達成できたか、どんな資質・能力が身についたか、ワークシートのルーブリックを活用し、振り返りを行うことを通して、自己成長感を味わう。
- (2) 学習の流れ

学習活動	指導上の留意点（・） 配慮を要する生徒への支援（◆） 予想される生徒の反応（「-----」）	評価規準 資質・能力（★） （評価方法）
<p>1 課題意識を持つ。</p> <p>2 本時のめあてを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 単元の挑戦問題「たくさんの人を笑顔にできる新しい自分づくりに挑戦しよう」を想起させる。 交流をする。 	
<p>めあて 「単元で身に付けた資質・能力を振り返ろう」</p>		
<p>3 各自、落語を披露することで、たくさんの人を笑顔にすることができたか、笑いの力を届けることができたかについて振り返り、クラスで交流する。</p> <p>4 ワークシートのルーブリックを見て、本単元で身に付けた資質・能力を自己評価する。</p> <p>5 6つの資質・能力を評価した内容について、具体的に記述する。</p> <p>6 ワークシートを提出し、教師の評価を受ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 広南劇場での地域の方の感想や、それぞれの出前落語でのお客さんの反応を生徒に紹介する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 長い話だったけど、しっかり覚えて演じることができた。 地域のお年寄りの方に笑ってもらうことができた。 ふれあいサロンでおばあちゃんが見せてくれた笑顔が嬉しかった。 </div> <p>◆自分への評価が厳しい生徒には、肯定的な面があったことを知らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が成長したと思うこと、課題だと思ふことなどを記入させる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>生徒の振り返り例</p> <ul style="list-style-type: none"> 人に笑ってもらうことがこんなに大変なことだとは思わなかった。 最初はとても恥ずかしくて、いい演技ができなかったけど、自分が恥ずかしがっているだけでは、人は笑ってくれないことがよく分かった。 自分の殻を破ることができた！ </div> <ul style="list-style-type: none"> 教師の評価はワークシートと発表をもとに学年団で行い、肯定的なコメントもつける。 	<p>★全項目を単元のルーブリックで振り返る。</p>